

Funehiki High School News vol.125

～がんばる船高生～ **ATTENTION!** 第5回 英検準2級に合格！ 藤井樹里さん・白岩蓮騎さん

「まさか自分が合格しているとは思わなかったので、嬉しいと同時に驚きの気持ちでいっぱいでした。」と、日本英語検定協会主催の英語検定準2級に合格した藤井樹里さん(2年、船引中出身 写真右)は、感想を述べました。

本校では、勉強・部活動はもちろんのこと、検定・資格取得にも力を入れています。これまでも英検準2級に合格した生徒は数多くいましたが、2年生の秋の試験で合格を手にしたのは久々の快挙です。ちなみに今回の検定の合格率は、全国で30%台です。

「実際の試験では、ここがだめだったかなとか、反省点がいっぱいありました。でも、筆記試験では日常で使う英単語を参考に、意味を推測して空欄を埋めました。面接では、単語ひとつひとつを聞き漏らさないようにしつつ、質問の意味をよく考えながら試験官に理解してもらえるように気を付けました。」

学校で配られたドリルを繰り返し解いて、担当の先生と何度も面接の練習をしたそうです。勉強、部活動、ドローン講座と毎日忙しい藤井さんですが、「次は数学検定にも挑戦したいです。」と意気込みを語ってくれました。

野球部レギュラーとしても活躍する白岩蓮騎さん(2年、常葉中出身 写真左)も、藤井さんと同じく準2級に合格。

「嬉しかったです。毎日、いろいろなテーマで英作文を書いたり、CDを聞いたりしました。受かるコツですか？ 自信がなくても、とにかく毎日やることです。勉強と部活動を両立させるため、時間をうまく使い、通学時間中も勉強しています。」

と話す白岩さんは、今日も大好きな野球と勉強に打ち込んでいます。



◆ドローンで交流を



昨年12月3日、小高産業技術高校ロボット研究部の生徒9人が来校し、本校のドローン特別講座受講生徒12人と交流しました。本校生が「ドローンとは何か」「ドローンの飛行に関連する法律」などを説明した後、ドローンの操縦方法を一緒に体験しました。

●参加した石井隆斗さん(2年、船引中出身)「自分が操作するよりも、人に教えながら操作するのは難しいですね。でも、ドローンを通じて他校の生徒と交流できたことが何よりも嬉しいです。」

◆税に関する作文入賞

国税庁主催「平成29年度 税に関する高校生の作文」で、本校の佐久間茜さん(1年、常葉中出身)が公益社団法人郡山法人会長賞を受賞しました。佐久間さんは「社会の授業などで税金の種類や使い道について学び、あまり良いイメージがなかった税が、社会に必要なのだと感じました。自分がこのような賞をいただけるとは思っていませんでしたので、びっくりしました。」と語ってくれました。



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233
HP...<http://www.funehiki-h.fks.ed.jp> mail...funehiki-h@fcs.ed.jp

一生懸命、笑顔で



Endia Mathews
エンディア・マシューズさん
(アメリカ合衆国
ジョージア州出身)
田村市に来て1年目

私が昨年4月に田村市で暮らし始めた頃は、故郷アトランタ市以外で生活したことがなかったので、全てのことに興味がなかった。初めは、なかなか理解できずに混乱することもありました。例えば食料品店で買い物を。アトランタの食料品店とは商品の並び方が違うので、買い物に1時間もかかったこともありましたね。日本とアメリカでは、学校にも違いがあります。日本の生徒は役割がいくつもあって、アメリカよりも責任が与えられています。学校の掃除もしますよね。アメリカの生徒は学校の掃除をしません。また、アメリカでは教師一人一人に部屋がありますが、日本ではすべての教師が職員室にいます。日本人は仕事をしたり遊んだり



昨年11月10日 移中学校

時は、皆さんが私に対して辛抱強く、しかも笑顔で対応してくれました。私は感動し、田村を大好きになりました。田村の皆さんが笑顔で一生懸命に働く姿を見ると、私ももっと一生懸命働こうと気がわいてきます。

する時、何より協調を大切にするんですね。とても感心しました。田村での生活に慣れるのは、思っていたよりも難しくありませんでしたよ。だって、田村の人々は本当に親切ですから。誰もが私を、市民の一人のように接してくれます。最初に郵便局に行った

海を越えて 英語指導助手ペンリレ No. 55 特別編

「海を越えて」50回目到達を記念して、英語指導助手の方に、田村市に来て感じていることや田村市の印象、子どもたちに英語を教えていることなどを伺いました。特別編として、数回に分けて掲載します。

思いやりのおかげ

僕が日本に初めて来た時、ほんの少ししか日本語を話すことができなかったのですが、最初は日本人たちと話すのが難しかったですね。あれから約9カ月、田村の人々とお話しするにつれて、少しずつですが、日本語を理解できるようになってきました。

僕は今、学校で英語を教えています。生徒や先生方がとても親切で驚いています。なかなか言葉が通じなくても、笑顔で対応してくれます。授業では、生徒はとも内気で静か。なかなか自分から発言してくれません。でも、昼休みや休み時間には、いつも好奇心が旺盛で、話をするのがとても楽しいですよ。僕も楽しくなっていますね。



Garrett Kaufman
ギャレット・カフマンさん
(アメリカ合衆国
カリフォルニア州出身)
田村市に来て1年目

職員室では先生方から、日本でも食べた食べ物についてよく聞かれます。先生方は、私がこれまでに食べたことがない食べ物を食べて欲しいようです。納豆とか、梨とか。食べ物は文化の基本でもありますから、僕もできるだけ食べていきたいですね。

市内を歩いていると、僕に声をかけてくれる方々がいて、田村についていろいろ楽しそうに教えてくれます。そんな皆さんの思いやりのおかげで、僕は日本での生活にすぐに慣れることができました。



昨年11月10日 都路中学校